



Triple Tree Media Information

2026 年 7 月 18 日

ウェット路面でドライタイヤをチョイスし、賭けに出た Juju。挑戦者であり続ける誇りと、悔しさが交錯した第6戦。



結成 2 年目を迎えた『HAZAMA ANDO Triple Tree Racing』は、7 月 17 日（金）～7 月 19 日（日）に静岡県・富士スピードウェイにて開催された『第 3 回瑠子女王杯 | 2026 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 3 戦・第 6 戦・第 7 戦』に参戦いたしました。

今大会は金曜日にフリー走行が 2 セッション実施され、土曜日に第 6 戦&第 7 戦予選と第 6 戦決勝、そして日曜日に悪天候でキャンセルとなった第 3 戦の決勝と第 7 戦決勝が行なわれるというトリプルヘッダーです。さらに第 6 戦と第 7 戦の最多ポイント獲得者には、『瑠子女王杯』が授けられる注目の大会でもあります。

今大会を前に、チームはその体制を強化すべく国内トップカテゴリーで数々の実績を誇る土沼広芳氏を新代表に迎え、チームアドバイザーのポジションを新設し、元レーシングドライバーとして国内外で活躍された森本晃生氏を迎え入れました。

「土沼代表と森本アドバイザーの加入によって、より多角的な視野から新たなアドバイスを頂けるのは、私にとってもチームにとっても大きなプラスです」と Juju は新体制に感謝の意を示しました。

Triple Tree Racing





この週末の天候はかなり不安定で、金曜日の走行は両セッションとも開始直前に雨が降り出し、一度も満足にドライ路面での走行ができない状況となってしまいました。HAZAMA ANDO Triple Tree Racing の 10 号車をドライブする Juju とチームは、フリー走行 1 回目では低速コーナーでのアンダーステア症状がなかなか改善されず 1 分 35 秒 654 で 23 番手、午後のフリー走行 2 回目では 1 分 37 秒 460 で同じく 23 番手に終わりました。それでもチームは限られた時間を最大限に使って雨のデータを収集し、不安定な天候の週末に向けて自信を深めつつありました。

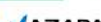
土曜日の午前 8 時 15 分から開始された第 6 戦予選では、Juju は全 24 台が 2 組に分かれて争われる予選 Q1 の A 組に出走。気温 22℃、路面温度 24℃というコンディションの中、雨は上がっているものの路面はまだ濡れており、オフィシャルからはウェット宣言が出されました。

予選開始直前に「一発ギャンブルに出て、ドライで行ってみる？」という野田英樹監督の無線での呼びかけに、一瞬躊躇した Juju でしたが、すぐに自信に満ちた声で、「最後の 1 周でトップ獲れる可能性があるなら、ドライでいってみよう！」と攻める覚悟を表明しました。チームはその気合を信じ、Juju の乗る 10 号車にドライ用タイヤを装着し、ウィングを目いっぱい立てて空力面でのダウンフォースを強化。Juju は全チームの中で唯一ドライ用タイヤを装着してコースインしました。

前日のフリー走行 2 回目終盤のように路面コンディションが好転すれば、路面が乾き始めさえすればドライ用タイヤでトップも狙えると、大きな賭けにでたチームでしたが、残念ながらコースコンディションはチームが期待するほどまでには回復せず、タイヤ温度が上がり切る前にチェッカーが振られてしまいました。最後のラップは渾身のアタックでスピンするほど攻めた Juju でしたが、結果は 2 分 06 秒 719 で 12 番手となり Q1 敗退。しかしトップを狙った攻めのトライだっただけに、チーム全員の表情に悔いはありませんでした。

午前 10 時 35 分から実施された第 7 戦予選は、気温 26℃、路面温度 30℃で、まだコースの一部は濡れてはいましたが全車ドライ用タイヤでのアタックです。Juju は今回も予選 A 組での出走でしたが、1 台が最終コーナーでスピン、ストップして赤旗中断。残り 3 分 33 秒での再開という微妙な状況でした。というのも 3 分 33 秒の残り時間では、ピットの場所が第 1 コーナー寄りのチームはタイヤを温め 2 周アタックができますが、最終コーナー寄りのピット位置からでは、最悪 1 周しかアタックができないからです。ピット位置は今年のチームランキング順とされており、Juju は新チームということで最終コーナー寄りのピットです。そのハンディを振り払うべくコースインした Juju でしたが、残念ながら 2 周目のアタックに僅かに届かないままチェッカーが出されてしまいました。しかも 4 輪脱輪でベストタイム抹消とされ、セッション開始 2 周目にマークした 2 分 35 秒 325 で 12 番手となってしまいました。

Triple Tree Racing





サポートレースも無事に終わり、華やかなグリッドウォークの後、全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦の決勝レースは、午後4時15分にスタートが切られました。

最後尾から素晴らしいスタートダッシュを見せた Juju は、1周目に激しいバトルを見せて2台をパスし、1台に抜き返されて23番手でコントロールラインを通過しました。そのまま前を行くマシンを追い続ける形で周回を重ねます。

スタート直前にパラパラと小雨が落ち始め、8周目にやや雨量が増したものの、まだレインタイヤに交換するほどの雨ではなく、各チームともピットウィンドウが開く11周を過ぎた段階でもタイヤ選択が定めきれずにいました。

Juju はコンスタントなラップを重ねてステイアウト戦略を取り、ライバルたちがタイヤ交換に入るタイミングに乗じて次第にポジションをアップ。12周目に21番手、15周目に19番手とポジションを上げていきます。

17周目に雨脚が弱まってきたこともあってピットに飛び込みドライ用タイヤに交換するライバルたちが増える中、自己ベストを更新しながら周回を重ねた Juju は、20周目には14番手まで浮上。しかしリヤタイヤが厳しくなり、24周終了時にピットイン。ピットは素晴らしい早さでタイヤ交換を済ませて Juju をコースに戻します。

その時点で再び24番手までドロップした Juju ですが、終盤まで意地を見せ、セクタータイムで自己ベストを更新しながら、最後までレースを走り切りました。結果は22位完走。苦しかったレースではありましたが、明日の第3戦、そして第7戦へ向けて、チームは今日のデータを解析し、休む事なく挑戦を続けます。

Rd	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
6	富士	41	曇り	25℃	29℃	24	22位

※気温、路面温度は決勝スタート時

◆ドライバー Juju のコメント

「第6戦の予選はトップを狙ってスリックタイヤに賭けたので、結果は残念でしたが後悔はありません。土沼代表が、『どんなスポーツでも1年に2回はチャンスがある』と言ってくださった言葉も後押ししてくれました。続く第7戦の予選は今週末一度もドライ路面で走行できていなかったことありますが、それ以上に自分のミスもあって、とても悔しい結果でした。

第6戦の決勝は、スタートもうまく決まったので、前をいくマシンを追い続け、できるだけ引っ張ってピットインしました。チームは素早いピット作業で送り出してくれたので、途中、ドリンクボトルの水を飲み切ってしまうと厳しいレースではありましたが、最後まで気合を入れて走り切りました。明日も2レースあります

Triple Tree Racing





ら、今日得られたデータを解析し、この悔しさを明日のレースで晴らしたいと思っています。

今日は早朝からたくさんの方々がピットまで応援に来てくださっていたので、いつもグリッド上でスタート前にチームスタッフ全員でやる意思統一の掛け声を、応援してくださる皆さんと一緒にパドックの部屋でできたことで勇気をもらいました。みなさん、明日も今日以上に応援よろしくお願いします」



◆監督 野田英樹のコメント

「天候に関しては、どのチームも同じ条件ではありますが、データ蓄積量の少ない自分たちとしては、前回の富士合同テストで得たデータを解析して考えた持ち込みセットを金曜日に試したかったのに、それが出来なかったのが厳しかったですね。

第6戦の予選は、もちろンドライ用タイヤでは厳しいとわかってはいましたが、万が一コンディションが好転したらトップを狙えるチャンスがある。その可能性に賭けた結果、思ったほど路面状況が好転しなかったということです。でもドライバーはあの状況で本当に良く頑張ってくれたと思います。逆に第7戦の予選は運悪いタイミングで赤旗が出てしまい、ピットガレージの位置も悪く、前の方のガレージのドライバーは2周アタックできたのに、自分たちは1周しかできず、それを失敗してしまったので手の施しようが無かったです。

Triple Tree Racing





第6戦の予選はトップ狙いで攻めた賭けに出ましたが、決勝は未知の領域に賭けて冒険するより、自分たちの現在の力を出し切って上位を目指すコンサバティブな方向で行くことにしました。ピットクルーも素晴らしい仕事をしてくれましたし、ドライバーも最後の数周になっても自己ベストを更新する頑張りを見せてくれました。振り返ってみれば、ドライバーにとっては苦しいレースだったと思います。今日の1日を振り返り、チームとして反省すべき点は反省し、仕切り直して明日の2連戦に挑みます。応援ありがとうございました」



◆代表 土沼広芳のコメント

「前回の合同テストからチームに帯同していますが、このチームの持つ熱量はとても高いと感じています。チーム設立2年目という部分で、今回のような不安定な天候に対するデータ蓄積量はハンディではありますが、野田英樹監督と Juju の第6戦予選に賭けたチャレンジは、結果はともかく高く評価したいと思います。チャレンジは攻める姿勢を崩してはいけません。自ら動き、変えていく。その行動力がいつか結果につながるのです。待っていてもチャンスは来ません。自分からチャンスをつかみに行く姿勢がレースなのです。朝の渋滞をものともせず多くのスポンサーの皆様が応援に来てくださったことにも大変感謝しています。レース結果は正直悔しかったですが、レース中のタイヤ交換は素晴らしく、メカニックたちの本気を感じました。ドライバーのパフォーマンスをフルに発揮できるマシンを作り上げるべく、明日のレースに向けてできる限りの準備を整えたいと思います」

◆この件に関するお問い合わせ: マネージメントアドバイザー チャーリー・チェン cac@3tree.jp

Triple Tree Racing

